

咲き匂う^さにお

■ 楽曲データ

歌詞：岡俊樹 作詞

楽曲：平井康三郎 作曲

発表：大谷楽苑 1952年

初演：弥栄グランド会館 1952年2月16日

初出：『讃仰歌』 大谷楽苑 1960年

管理番号：M1426

■ 創作の経緯

大谷楽苑より「讃仰歌」第16番として発表。歌詞は公募による。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第2巻収録

底資料：『讃仰歌』 大谷楽苑 1960年

比較資料：—

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

◆ 作詞・作曲について

岡俊樹の詞には、全くといっていいほど陰りがありません。仏さまは、常に暖かい手をさしのべて私たちを救おうとはたらいてくださっていること、そして、その信仰に生きる喜びと恵まれる大いなる力を、わかりやすい言葉でつづっています。苦難の多い人生のさまざまな場面を通して生み出された、凜と透き通った明るさが感じられます。

作曲の平井康三郎（本名・保喜、1910年高知県生まれ）は、『平城山』（ならやま）『ゆりかご』『合唱讃歌』などの作品で知られる作曲家です。幼時から地方の伝統音楽や舞踏を見聞し、オルガンを独習しました。中学時代からヴァイオリンを学び、作曲をはじめました。仏教讃歌には、『ゆるされし』『わざわいの』『衆会』『白蓮』などの作品があります。また、釈尊降誕を題材とした交声曲『大いなる哉』は、ピアノ伴奏とソプラノ・アルト・テノール・バスの独唱を伴う壮大な構成の仏教讃歌として知られています。

『咲き匂う』は17小節の短い曲ですが、そのなかにさまざまな表現が含まれています。ことに中間部分から曲の終わりにかけては、高音域が続きますので、余裕をもって歌えるよう練習しましょう。前述のように、詞は平易な言葉で綴

られています。その内容を自らの信仰生活を通して味わうことが大切です。

◆歌い方について

全体にゆったりとしたテンポで、一つ一つの音を十分に保って歌うよう、心がけてください。8分休符を効果的に生かして歌っていただきたいものです。

①歌い出しの1・2小節目は、生き生きと喜びに満ちて歌い出すように心がけましょう。

②2小節目「ラ」→「レ」の音程に注意して、また8分音符の動きがごつごつならないようにしてください。

③4小節目には、全曲を通してただ1ヶ所、付点8分音符と16分音符が出てきます。リズムを生かして（ただし、わざとらしくなく）歌ってみてください。

④5小節目から7小節目にかけて高音域が続きます。息のコントロールが大切になりますので、何度も練習してください。

⑤6・7小節目の高い「ファ」は、音程が低くなりがちです。特に、7小節目の最後の「ファ」はフェルマータ（「動きを止める」という意味の記号）がついているので、長く伸ばします。音の長さや音程を十分に保てるよう、7小節目冒頭の8分休符で、上手に息継ぎしましょう。

⑥10～13小節目も、たっぷりとした息遣いが必要となります。11小節の付点2分音符でクレッシェンドしていき、その反動を利用してすばやく息継ぎができるよう練習しましょう。

⑦11小節目終わりの音「ファ」からの下降音階は、音程が下がりすぎないように注意して歌いましょう。

⑧14小節目「ファ」→「レ」の跳躍をしっかりと上げられるよう練習しましょう。

⑨終わりの16・17小節目は音量豊かに歌いきりましょう。

◆楽譜・用途について

若婦人会などで、のびのびと歌ってみてください。仏前結婚式の讃歌にも適しています。

原曲は混声四部合唱です。楽譜は『聖歌・讃歌集』第2巻、音源はCD『いのち』をご参照ください。

また、二部合唱版の楽譜は『讃歌集 二部合唱』第4巻に掲載されています。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 39（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第166号収録）を加筆・修正のうえ、転載。